

MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)はカール・ユングの提唱したタイプ論をベースに、キャサリン・クック・ブリッグスとその娘イザベル・ブリッグス・マイヤーズが開発した性格検査で

ナビゲーター

す。初版は1962年に完成しました。現在45カ国以上の国で利用されている国際規格の検査ツールとして有名です。

この検査は人の持つ生まれられた性格を、「もの見方

◆ 43 ◆

働く人と組織

働きやすさの獲得と働きがいの創出

(感覚・直観)「判断のしかた(思考・感情)」および「興味関心の方向(外向・内向)」「外界への接し方(判断的態度・知覚的態度)」の4指標の組み合わせで示され、16タイプに分類されています。

MBTIの特徴は、検査結果をあくまできっかけとして捉え、その後受検者がMBTI認定ユーザーの支援を得て、自分にとってじっくりくるタイプ「ベストフィットタイプ」を探すことを重視することです。人は成長する過程で環境からの求めに応じて外向きの人格「ペルソナ(仮面)」

ラグビー日本代表チームも導入

を身に付けていきます。ベストフィットタイプを探すことは、ペルソナではない本来の自分を見つげる大切な旅なのです。

MBTIの活用範囲は広く、自己理解、他者理解、キャリアカウンセリング、チームビルディング、リーダーシップやマネージメント力の開発、異文化理解トレーニングなど、組織や働く人々のためさまざまな場面で生かされます。

実際の活用事例を見てみましょう。個人にとつて自分の強みや興味の方向性、課題などがわかることで、キャリアデザインや働き方の選択に生かされたり、また自分と他者のタイプの違いを認識することで周囲との人間関係やコミュニケーションが円滑になったりします。大学のキャリアセンターや再就職支援会社で導入され、求職者向けに活用されています。筆者もキャリアコンサ

ルトアントとして求職者のキャリアデザイン、自己理解の場面でMBTIを利用し、その効果を実感している一人です。MBTIは組織やチームにも多く導入されています。五郎丸選手を擁したラグビー日本代表チームのヘッドコーチを務めたエディー・ジョーンズ氏は、『ラグビー日本代表ヘッドコーチ エディー・ジョーンズとの対話』という本の中で、すべての選手をよく

理解するためにMBTIを導入したことや、チームづくりにおけるMBTIの有効性を語っています。

日本では欧米と比べるとまだ知名度は低いものの、徐々に導入が進んでいます。組織と働く人々が生き生きするために、MBTIの今後の展開が楽しみです。

【日本産業力カウンセラー協会 産業力カウンセラー 国家資格キャリアコンサルタント 1級キャリアコンサルタント ティング技能士 MBTI認定ユーザー 大澤美紀】
(火曜日に掲載)

